



## 新型コロナウイルス感染を食い止める

「がんばるぞ!」と意気込んで始まった新学期ですが、16日からまた臨時休校となってしまいました。学校では、行事はおろか学習さえもままならない状況になっています。ご家庭では、昼食のこと、子どもだけの時間が長いことなどたくさんの心配がある中で、新型コロナウイルス感染に怯え、神経をすり減らし、対応に追われて本当に心穏やかではない日々が続いていることと思います。

未だかつて経験したことがないような事態ですが、なんとか乗り切りたいものです。

「今、緊急事態宣言を受けて、自分を律している人ほど観光や遊びに出ている人を腹立たしく思うかもしれません。しかし、皆さんのような人たちがいるからこそ、欧米のような医療崩壊を防いでいます。今はみんなの足並みがそろわなくても、その姿勢は必ず誰かの行動を変えるはずです。そして、全国にはまだ感染者の少ない地域も多くあります。不用意に生活エリアを越えた移動をしないこと。これが誰かのふるさとを守ることに繋がります」とアナウンサーが語っていました。また、「2週間後の未来をつくるために、今日もみなさんのご協力をお願いいたします」とも言っていました。5月7日に全ての学校で子どもたちが笑顔で再会できることを願っています。



### “中止”

### 保小中連携協議会

### 教育支援連携協議会

## つながりは子どもたちのために



新型コロナウイルス感染対策のためセンター関

係でも大切な会議が中止になりました。1つは、町内の保育所長、小・中学校長による、保小中連携協議会です。

右に示したような連携の意義を踏まえ、今後は、各校の連携担当者を中心に取り組んでいきます。就学相談員や町の子育て支援課も含め、互いに密な連携を取り合い、日常的なつながりを深め、子どもたちの保育所・学校の生活充実を図っていききたいと思います。



あと1つは、富士河口湖町教育支援連携協議会

で、「小学校就学から中学校卒業までにおいて、教育的支援を必要とする児童・生徒のより望ましい学びや生活のあり方を実現する」ことを目的とした、教育委員会・福祉推進課・子育て支援課・保育所・学校・関係諸機関等の有機的連携体制の構築

を図る組織として昨年度発足しました。このことにより、今まで以上に各関係機関の連携が図られ、子どもにとってより良い状況がつけられています。家庭や保育所・学校の現場と教育委員会などの関係機関とがつながりやすいように就学相談員・スクールソーシャルワーカー（SSW）が働きかけをしてくださり、今まで以上に相談や情報交換ができるようになっています。

会議は中止となりましたが、子どもたちのために様々な連携を図っていきます。

### 保・小・中連携の意義

保育所(園)の保育士、小学校及び中学校の教員等が、保・小・中間の「段差」を理解し、子どもたちの連続的な発達等を考慮しながら、それぞれの立場で子どもたちの付けたい力・育ち・学びの連続性などについて相互理解を深め、小・中学校教育への連続を円滑にすることにより、いわゆる『小1プロブレム』・『中1ギャップ』(『小4ビハインド』・『高1クライシス』)を未然に防止し、子どもたちの学校生活の充実を図る。